

子どもの体育授業態度評価と学級に対する意識との関係

The Relationship between the Children's Evaluation of Physical Education Classes and Children's Consciousness toward their Classroom in Elementary School

細越 淳二・鋤柄 純忠

1. はじめに

来年度から本格実施される学習指導要領では、体育科の目標の冒頭に「心と体を一体としてとらえ」という一文が示された（文部省，1999）。これは、学級崩壊、いじめや不登校、青少年犯罪の凶悪化、キレる子どもの増加、体力の低下、運動をする者とそうでない者の二極化など、現代の子どもたちが抱える心と体の多くの問題への解決の糸口を、教科体育に担ってほしいという強い要請であることがうかがえる（杉山，2000；池田，2000）。つまり、体育科発信で、子どもたちの問題の解決を試み、子どもたちの学校生活、学級生活を豊かなものに改善していこうという思いが込められていると解釈することができる（高橋，1999）。

教科指導と学級経営の密接な関連は、これまでも語られてきたことである（木川，1985；吉崎，1991；歌川，1998）が、「体育の授業を観れば、学級の様子がよくわかる」といわれるように、体育授業と学級経営の結びつきは、他の教科以上に深いのではないだろうか。なぜなら、学級経営のうまくいっているクラスは、グラウンドや体育館といった広い空間に行っても、子どもたちがよくまとまり、集中して授業を展開できていることが予想されるからである。

では実際に、体育授業と学級経営には、どのような関係があるのだろうか。八代（1998）は「遊びやスポーツの学習を通して、ルールを守ることの大切さ、運動仲間や相手を思いやり大切にする気持ち、集団における行動の仕方、競争と共同のありかた、共感する心等々多くを学ぶことができ、これらの成果が学級経営の基礎となる」として、「学級経営と体育」をテーマに授業研究に取り組んで小学校の事例を紹介している。また小谷川ら（2000）も、八代があげたような関わり合いを色濃く打ち出せるのが体育学習の特質であり、学級をまとめる良い方法になりうると指摘している。

しかし残念ながら、この点に関する実証的な研究知見はほとんど見あたらない。これまでの研究を振り返ると、唯一日野らが、子どもの学級集団に対する意識（学級集団意識）と体育授業との関係を調査し、学級集団に対する意識と体育授業との間に強い相関関係があることを報告しているが（日野，1998；日野ほか，2000）、クラスの雰囲気や学級風土（スクールモラル）と体育授業との関係、学級の雰囲気を決定づける大きな要因の一つである教師に関わる要因と体育授業との関係など、まだまだ確かめるべき点は山積されている。

る。

体育がどのように学級経営と結びついているのか、どのような貢献をするのか、この点についての調査結果が示されれば、よりよい学級経営のための指標を得ることができるであろうし、よい体育授業実現のための条件を明らかにすることができるものとする。

そこで本研究では、学級経営と体育授業に関する調査を行うことから、学級経営と体育授業の結びつきを明らかにし、今後の学級経営および体育授業改善に向けた一資料を提供することを目的として研究を進めることにする。

2. 研究の方法

1) 対象及び調査期日

2001年5月～6月にかけて、千葉県、埼玉県下の小学校5校8クラス（3～6年生）210名を対象に調査を行った。

2) 調査内容

(1) 体育授業態度評価¹⁾

高田ら（1992）によって開発された20項目からなる「体育授業態度調査票」を用いて、子どもたちが体育授業にどのような態度を示しているかを調査した。

(2) スクールモラルテスト²⁾

子どもたちが自分の学級生活をどのように認知しているのかを知るために、河村・田上（1997a）によって開発された9項目からなる「スクールモラルテスト」を実施した。

(3) 教師の勢力資源測定尺度³⁾

子どもたちが体育授業や学級で生活する際には、教師の関わりや役割が大きな影響をもってくる（古畑，1979；小川，1979）。そこで、子どもたちが学級担任をどのようにとらえているのかを、18項目からなる「教師の勢力資源測定尺度」（河村，1998）を用いて測定した。

(4) 教師へのインタビュー

態度評価得点が高かった子どもと低かった子ども4名について、普段の学級での生活の様子を中心に教師にインタビューを行い、彼らの生活の様子を調査した。

(5) 統計処理

本研究では、体育授業態度評価とスクールモラルの間の関係を単相関係数（ピアソンの積率相関係数）を算出することから検討した。分析にあたっては、統計ソフト Statview 5.0 を用いて処理した。

3. 結果と考察

1) 各調査の分析結果

(1) 体育授業態度調査

表1は、体育授業態度調査（以下、態度評価と略す）の結果を示している。総合評価を見ると、C組の評価が「4」だった以外は、すべてのクラスが5段階評価の「5」の評価を得ていた。8クラスの平均も、すべての次元で「5」の評価を得ており、今回分析した

子どもたちが体育授業に対して非常に肯定的な態度をとっていることが明らかであった。しかし、A組及びC組の技能次元は、その評価が「2」と低かったことから「体育授業は好きだが技能的な自信がない」というクラスも見受けられた。

表1 各クラスの体育授業態度評価

単位：点

ク ラ ス	総合評価									
			楽しさ		学び方		技 能		協 力	
A (N = 32)	52.63	5	13.81	5	12.34	5	12.25	2	14.22	5
B (N = 26)	53.55	5	14.79	5	12.07	5	12.00	5	14.69	5
C (N = 28)	49.07	4	13.14	4	11.50	4	10.54	2	13.89	5
D (N = 26)	53.56	5	14.78	5	11.44	4	12.66	5	14.69	5
E (N = 22)	50.80	5	14.43	5	11.09	4	12.02	5	14.26	5
F (N = 23)	54.50	5	13.96	5	13.46	5	12.58	5	14.50	5
G (N = 25)	55.20	5	14.17	5	13.82	5	12.57	5	14.64	5
H (N = 28)	54.39	5	13.82	5	13.79	5	12.00	5	14.79	5
AVG.(N = 210)	52.81	5	13.96	5	12.41	5	12.00	5	14.45	5

*各項目の左側はクラスの平均点を示し、右側は診断基準に照らした5段階評価を示している。

(2) スクールモラールテスト

表2は、スクールモラールテスト（以下、SMTと略す）の結果を示している。8クラスの学級平均値は29.45点であった。これは、河村らによって報告されている先行研究の値と比べて高い値であり、今回分析したクラスの子どもたちが学級生活に満足していたことが明らかであった（河村，1996，1997；河村・田上，1997b，1997c）。

各項目の平均値を見ると「明るいクラス（3.73）」「一緒に活動の有無（3.54）」「好感をもてる人がいる（3.52）」「わかってくると勉強が楽しくなる（3.63）」の項目で3.50点以上の高い得点を得ていた。また「クラスの助け合い（3.09）」「親切な仲間がいる（3.24）」「勉強への努力をしている（3.28）」の項目も3.00点以上の高い評価であった。このことから、子どもたちが自分たちのクラスを明るいクラスだと認識し、その中で仲間と協力しながら勉強や諸々の活動に取り組んでいる様子をうかがうことができた。しかし、「クラスのまとまり（2.71）」の項目はやや得点が低かった。調査を実施したのが5～6月であったことから、子どもたちは数名の友だちと協力して活動することはあっても、クラス全体が1つにまとまっていると感じるまでには時期的にもいたっていなかったことが、この結果の要因の1つとして考えられた。

表2 スクールモラル分析結果

単位：点

ク ラ ス	総合評価	学級の雰囲気認知			級友との関係認知			学 習 意 欲		
		明るい クラス	クラスの まとまり	クラスの 助け合い	親切 な 仲間	一緒 の 活動	好感を もてる 人	勉強が 楽しく なる	教師の 指名	勉強への 努力
A (N = 32)	28.85	3.53	2.47	2.78	3.41	3.53	3.44	3.56	2.75	3.38
B (N = 26)	31.95	3.85	3.27	3.65	3.62	3.65	3.69	3.65	2.88	3.69
C (N = 28)	28.17	3.86	2.71	3.00	2.96	3.29	3.32	3.61	2.46	2.96
D (N = 26)	30.60	3.88	3.08	2.77	2.92	3.42	3.88	3.88	3.12	3.65
E (N = 22)	27.13	3.50	2.27	2.86	2.91	3.41	3.32	3.36	2.36	3.14
F (N = 23)	30.49	3.91	2.96	3.52	3.26	3.57	3.65	3.70	2.70	3.22
G (N = 25)	30.44	3.84	2.64	3.28	3.60	3.72	3.52	3.80	2.76	3.28
H (N = 28)	28.12	3.50	2.32	2.96	3.21	3.75	3.39	3.46	2.64	2.89
AVG.(N = 210)	29.45	3.73	2.71	3.09	3.24	3.54	3.52	3.63	2.71	3.28

(3) 教師の勢力資源測定尺度結果

表3は、教師の勢力資源測定尺度（以下、勢力資源と略す）の分析結果を示している。E組とH組を除いた6名の教師は教師の魅力型と評価され、子どもたちは教師の人間的な魅力を強く感じていることがわかった。しかし、E組とH組の教師は勢力資源喪失型と評価され、一貫性を欠く指導をしているととらえられているという事実が確認された。

個人単位で見ると、60.95%の子どもが教師の魅力型と担任教師を評価する一方で、2.38%は強制勢力活用型、2.86%が強制勢力型、33.81%の子どもは勢力資源喪失型と評価していた。

これらの結果は、半数以上の子どもたちは、教師の人間的な魅力に感じながら指導を受けているが、35%弱の子どもは、教師の指導が自分たちに通じていないか、あるいは一貫性のない指導をしていると受けとめており、教師と子どもの関係が良好でないと感じている子が予想以上に多いという事実を示していた。

表3 教師の勢力資源尺度分析結果

	魅力得点	罰得点	教師の魅力型		強制勢力活用型		強制勢力型		勢力資源喪失型		クラス全体
A (N = 32)	3.24	1.82	25人	78.13%	0人	0.00%	1人	3.13%	6人	18.75%	教師の魅力型
B (N = 26)	3.33	1.50	23人	88.46%	0人	0.00%	0人	0.00%	3人	11.54%	教師の魅力型
C (N = 28)	2.82	1.43	17人	60.71%	1人	3.57%	0人	0.00%	10人	35.71%	教師の魅力型
D (N = 26)	2.83	2.19	14人	53.85%	4人	15.38%	1人	3.85%	7人	26.92%	教師の魅力型
E (N = 22)	2.50	1.64	8人	36.36%	0人	0.00%	2人	9.09%	12人	54.55%	勢力資源喪失型
F (N = 23)	2.70	1.55	12人	52.17%	0人	0.00%	0人	0.00%	11人	47.83%	教師の魅力型
G (N = 25)	2.84	1.57	16人	64.00%	0人	0.00%	1人	4.00%	8人	32.00%	教師の魅力型
H (N = 28)	2.58	1.86	13人	46.43%	0人	0.00%	1人	3.57%	14人	50.00%	勢力資源喪失型
AVG.(N = 210)	2.86	1.70	128人	60.95%	5人	2.38%	6人	2.86%	71人	33.81%	教師の魅力型

2) 体育授業態度調査とスクールモラルとの関係

表4は、態度調査とSMTの相関関係を示している。態度評価の総合評価とSMTの総合評価(.540)、級友との関係の認知(.449)、学習意欲(.481)、そして楽しさ次元とモラルの総合評価(.452)、学習意欲(.420)の間では、比較的高い相関値を得ていた。その他の項目でも.300以上の相関値が得られた。

表4 体育授業に対する態度とスクールモラルとの関係 (N = 210)

(ピアソンの積率相関係数)

	合 計												
	学級の雰囲気認知					級友との関係認知				学 習 意 欲			
		明るい クラス	クラス のまと まり	クラス の助け 合い		親切な 仲間	一緒の 活動	好感を 持てる 人		勉強が 楽しく なる	教師の 指名	勉強へ の努力	
総合評価	.540***	.345***	.300***	.307***	.216**	.449***	.376***	.358***	.250***	.481***	.389***	.356***	.287***
楽しさ	.452***	.323***	.301***	.318***	.156*	.323***	.221**	.220**	.266***	.420***	.385***	.308***	.215**
学び方	.383***	.256***	.245***	.168*	.207**	.369***	.368***	.305***	.134	.286***	.230***	.248***	.127
技 能	.363***	.185**	.154*	.206**	.080	.273***	.197**	.274***	.134	.392***	.316***	.278***	.249***
協 力	.380***	.282***	.179**	.242***	.232***	.353***	.314***	.169*	.281***	.269***	.152*	.147*	.279***

(* p < .05, ** p < .01, *** p < .001)

表5は、各クラスごとの態度評価得点とスクールモラルの総合評価の相関を示している。クラスごとにばらつきは見られるが、多くの項目間で.400以上の相関値が得られた。

これらのことから、体育授業に対する態度とクラスに対する意識のプラスの関係が確認され、体育授業と学級経営の相互関係を確認することができた。

表5 体育授業に対する態度とスクールモラルとの関係

(ピアソンの積率相関係数)

		ス ク ー ル モ ラ ル (総合評価)							
		A(N=32)	D(N=26)	E(N=28)	F(N=26)	G(N=22)	H(N=23)	I(N=25)	J(N=28)
体育授業態度評価	総合評価	.709 ***	.459 *	.411 *	.458 *	.447 *	.602 **	.670 ***	.719 ***
	楽しさ	.486 **	-.118	.257	.247	.396	.703 ***	.480 *	.691 ***
	学び方	.633 ***	.324	.398 *	.382	.462 *	.342	.495 *	.595 ***
	技 能	.686 ***	.331	.081	.278	.025	.617 **	.516 **	.474 *
	協 力	.352 *	.676 ***	.368	.420 *	.470 *	-.158	.755 ***	-.016

(* p < .05, ** p < .01, *** p < .001)

3) 評価の高い子と低い子の個別事例

これまでの分析から、全体として子どもたちは態度評価得点も高く、SMT得点も高い。また両者の間にはプラスの関係があることが確かめられた。しかし、教科指導も学級経営も、クラス全体へと同時に個々の子どもに教育的な働きかけをする営みであるから、個々

の子どもがどのような状況にあるのかを把握することも当然重要である。そこでここからは、態度評価得点を切り口にして、評価の高い子どもと低い子どもを2名ずつ抽出し、「学級(友人)－教師－家庭」という視点から、子どもたちの実態を具体的に記述することにする。

(1) 体育授業態度評価の高かった子ども

〈Aさん(6年生：女子)〉

表6は、Aさんの調査結果と生活の様子をまとめたものである。Aさんは、体育授業態度評価はすべての次元で「5」の評価をしており、体育授業に非常に肯定的な態度をとっている。また、SMT得点も31.00点と高く、勢力資源も「教師の魅力型」と評価していた。この調査結果から、Aさんは、クラスに対して満足感を抱き、教師の人間的な魅力を感じて指導を受けていることがわかる。

教師のインタビューから、彼女はおてんばで子どもっぽい面もあるが、非常に明るい性格である。運動技能レベルは高く、体育授業にも学級の活動にも積極的に参加し、友人も多いということであった。家庭環境にも問題は見られない。

以上のことから、彼女が学級生活に満足し、友人や教師との関係も良好で、家庭にも問題がなく「学級(友人)－教師－家庭」の安定した環境の中で生活している様子をうかがうことができた。

表6 態度評価の高かったAさん(6年生：女子)の調査結果

態度評価	総合評価	楽しさ	学び方	技能	協力
	56.00 (5)	15.00 (5)	14.00 (5)	13.00 (5)	14.00 (5)
スクールモラル	総合評価	雰囲気	級友との関係	学習意欲	
	31.00	3.00	4.00	3.67	
勢力資源	魅力得点	罰得点	教師への評価		
	3.60	1.67	教師の魅力型		
生活の様子					
<ul style="list-style-type: none"> ・明るい性格 ・子どもっぽい一面がある ・運動技能レベルは高い(足が速い) ・体育授業に積極的に参加 			<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動に積極的に参加 ・学級活動に積極的に参加ブラスバンド部に所属 ・友人も多い ・家庭環境に特に問題なし 		

〈Bくん(6年生：男子)〉

表7は、Bくんの調査結果と生活の様子をまとめたものである。Bくんも、態度評価はすべて「5」の評価で、体育授業に対して非常に肯定的な態度を示していた。SMT得点も33.00点と非常に高く、学級生活に満足していることが明らかであった。しかしBくんは、教師のことを勢力資源喪失型と評価しており、教師のことはあまり高く評価していないことがわかった。具体的には「先生を信頼している」「先生の言うことに納得できる」の項目は評価が高かったものの、「先生と気軽に話しやすい」「先生があたたかくてあまえられ

る」等の項目の評価が低かったことが特徴的であった。

Bくんは、身長166センチと大柄で運動神経抜群、バスケットボール部の中心選手として活躍する一方、地区の野球チームのエースピッチャーをつとめている。体育授業にも非常に積極的に参加し、リーダーシップをとれる。体育の授業でも普段の生活でも、相手によって接し方を変えられる器量の良い子である。具体的には、体育授業では、相手が強いチームであれば本気を出してプレーするが、相手が自分よりも弱い場合は、試合が拮抗して両チームが楽しくプレーできるような配慮が自然とできる子であるという。優しい性格で人望も厚く、家庭環境にも特に問題は見られない。

以上のことから、Bくんは学級生活に満足し、友人や家庭環境にも問題がなく、「学級(友人)一家庭」においては安定して生活しているが、教師との関係については、信頼はしているものの、教師に話しかけづらいと回答し、教師との間に壁を感じている様子が見られた。

表7 態度評価の高かったBくん(6年生:男子)の調査結果

態度評価	総合評価	楽しさ	学び方	技能	協力
	57.00 (5)	15.00 (5)	14.00 (5)	14.00 (5)	14.00 (5)
スクールモラル	総合評価	雰囲気	級友との関係	学習意欲	
	33.00	3.67	4.00	3.67	
勢力資源	魅力得点	罰得点	教師への評価		
	2.47	1.00	勢力資源喪失型		
生活の様子					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動神経抜群 ・地区の野球チームのエースピッチャー ・体育授業に積極的に参加 ・体育授業中も相手に合わせたプレーができる 			<ul style="list-style-type: none"> ・優しい性格で人望も厚い ・相手によって接し方を変えられる ・友人も多い ・家庭環境に特に問題なし 		

(2) 体育授業態度評価の低かった子ども

〈Cくん(5年生:男子)〉

表8は、Cくんの調査結果と生活の様子を示している。Cくんの態度評価をみると、技能の評価が「5」である他は、すべて「1」の評価であった。SMT得点も20.00点と低く、学級生活に満足していない様子が見てとれる。特に「学級の雰囲気」に対して非常に低い評価をしていたことが特徴的であった。また、Cくんは教師を勢力資源喪失型と評しており、特に「先生の言うことを聞くのは当たり前」「先生に気軽に話しかけられない」「先生にあまえられない」等と回答していることから、教師への信頼感が厚くないことがわかる。

教師のインタビューから、彼は運動技能レベルはクラスの中で中程度で、体を動かすことが好きな子だという。態度評価の技能次元の評価が高いのも、彼の運動好きと関係していると思われる。性格は明るい、いつも特定の友だちと行動をともにしている。家庭環

境には特に問題は見られない。

以上のことから、Cくんは、体を動かすことが好きだけでも、クラスの雰囲気満足しておらず、教師に対しても、心を開いているとは言い難い状況にあることがわかった。特定の友だちといつも行動をともにしていて集団での活動に積極的ではないため、態度評価の学び方や協力の評価が低くなったのではないかと推察できる。

表8 態度評価の高かったCくん（5年生：男子）の調査結果

態度評価	総合評価	楽 し さ	学 び 方	技 能	協 力
	42.00 (1)	9.00 (1)	7.00 (1)	15.00 (5)	11.00 (1)
スクールモラル	総合評価	雰 囲 気	級友との関係	学習意欲	
	20.00	1.00	3.00	2.67	
勢力資源	魅力得点	罰 得 点	教師への評価		
	2.07	1.33	勢力資源喪失型		
生 活 の 様 子					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能レベルはクラスの中で中程度 ・体を動かすことが好き ・性格は明るい方 			<ul style="list-style-type: none"> ・特定の友だちと一緒に遊ぶことが多い ・家庭環境には特に問題なし 		

〈Dくん（6年生：男子）〉

表9には、Dくんの調査結果と生活の様子をまとめている。Dくんは、今回分析した中で非常に低い態度評価得点を示していた子の1人であった。学び方次元で「2」の評価をした以外は、すべての次元で最低の「1」の評価で、体育授業に対して極端に否定的な態度を示していた。SMT得点は25.00点で、「やや満足」に少し欠ける程度の意識で学級生活を送っていることがわかる。また、彼は教師を勢力資源喪失型と評価しており、教師への信頼感を欠いていると回答していた。

教師へのインタビューから、Dくんは母親がおらず、家庭では祖母に実質母親代わりをしてもらっている子である。5年生までは情緒不安定な面が見られ、友だちにバカにされたりすると、モノを投げるなどの行動をとることが多かったという。小太りの体型で運動技能レベルは低く、そのときの気分で授業への参加態度が変わる。6年生になって責任感が生まれ、積極的に行動しようとするようになったが、やる気が空回りして友だちからからかわれてしまい、癇癪を起こしてしまうような場面も時々見られるという。友人関係も良好とはいえない。

このように、Dくんはクラスに対しては「やや満足」に少し欠ける程度の評価をしているが、教師に対しては「信頼できない」「先生が厳しい」などの評価をし、友人関係も家庭的にも不安定な面があると思われる子であった。

表9 態度評価の低かったDくん（6年生：男子）の調査結果

態度評価	総合評価	楽しさ	学び方	技能	協力
	40.00 (1)	11.00 (1)	10.00 (2)	7.00 (1)	12.00 (1)
スクールモラル	総合評価	雰囲気	級友との関係	学習意欲	
	25.00	2.33	3.33	2.67	
勢力資源	魅力得点	罰得点	教師への評価		
	2.53	2.33	勢力資源喪失型		
生活の様子					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能レベルはあまり高くない ・そのときの気分で授業への参加態度が変わる ・5年生までは、よく情緒不安定になった（情緒不安定になるとモノを投げる） ・友だちからからかわれることが多い 			<ul style="list-style-type: none"> ・6年生になって、責任感がでてきて積極的に働こうとするが、空回りしてバカにされることがある ・母親がおらず、おばあちゃん子 		

以上のように、全体傾向としては子どもたちは体育授業に対して肯定的な態度を示し、学級に対しても肯定的な認識を示していたが、体育授業に対する態度を切り口に、個々の子どもの様子を見てみると、態度評価得点の高い子どもであっても、教師との関係に満足していなかったり、否定的な態度の子どもは内面的な不安定さや家庭環境等の悩みを抱えているという具体的事実を確認することができた。

4. ま と め

学級経営と教科指導の関係は、常々語られてきたことであり、その関係が重要である。特に体育は、机や椅子のない環境で、子どもたちが校庭あるいは体育館いっぱい広がって活動するため、その関係が強いものと予想できる。しかし、この点について実証的に確かめられたものは少ない。そこで本研究では、小学生210名を対象に、体育授業態度調査とスクールモラルテストを用いて、体育授業に対する態度と学級に対する意識の関係を調査分析することにした。そして体育授業態度評価得点の高かった子と低かった子2名ずつを抽出し、今回の調査結果と教師へのインタビューから、それらの子の生活実態を記述した。

分析の結果、今回対象となった子どもたちは、体育授業に対して肯定的な態度を示していた。スクールモラルテストの得点も高かったことから、学級生活に満足感を抱いていることがわかった。教師の勢力資源測定尺度の結果、全体として子どもたちは教師の人間的魅力を感じながら指導を受けていることが明らかになった。

態度評価得点とSMT得点の間には、多くの項目で、400以上の有意な正の相関関係が認められた。このことから、体育授業と学級経営との間のプラスの関係が確認できた。これは、日野ら（2000）の報告を追証するものであった。

また、態度評価得点の高い子どもと低い子どもの生活の様子を記述した結果、今回抽出

した子どもについては、態度評価得点の高い子はSMT得点も高く、友だち関係も良好で、家庭環境にも大きな問題のない子で、安定した環境の中で学校生活をしていることがわかった。しかし、教師への評価を見ると、教師の人間的な魅力に惹かれている子とそうでない子が見られた。態度評価得点の低い子は、SMT得点も低く、教師への評価も勢力資源喪失型と評価していた。また、これらの子どもは友だちとの関係に問題が見られたり、家庭的にも不安定さが感じられるなど、その子が置かれた環境が様々である事実が確かめられた。

今回は、アンケートによる調査と教師へのインタビューから体育授業と学級経営との関係を考察したが、今後は、実際の学級での生活場面および体育授業場面を観察する中から、体育授業と学級経営双方を改善していくための方策、また個々の子どもの体育授業あるいは学級への意識に影響を与えている要因を探る臨床的な研究を行う必要がある。また、今回の分析は1学期に行ったが、年間を通して継続的に調査し、子どもたちの変化をとらえていくことも必要であろう。

註

- 1) 体育授業態度評価票(高田ほか, 1992)は、子どもたちが体育授業に対してどのような態度を示しているかを測定するために開発されたもので「楽しさ」「学び方」「技能」「協力」の4次元から構成されている。これらは現行の学習指導要領の観点別評価基準にほぼ対応した内容となっている。得点は3点満点で計算される。
- 2) スクールモラルテスト(河村・田上, 1997a)は、子どもたちが「学校の集団生活ないし諸活動に対する帰属度、満足度、依存度などを要因とする児童生徒の個人的、主観的な心理状態」をさす(河村, 1998)。SMTは、「学級の雰囲気認知」「学級内の級友関係認知」「学習意欲」の3次元9項目の設問で構成されている。得点は4点満点で計算される。
- 3) 教師の勢力資源測定尺度は「教師の魅力得点(15項目)」と「罰得点(3項目)」を算出する項目からなっており、それぞれの点数から、教師行動を「教師の魅力型」「勢力資源喪失型」「強制勢力型」「強制勢力活用型」の4つのタイプに分類するものである。教師の魅力型と評価された教師は、子どもから「教師としての魅力、人間的な魅力を背景に指導を行うタイプの教師」とであると認識され、強制勢力活用型は「教師としての魅力が高く、また管理的」でもある教師ととらえられているとされ、強制勢力型は「教師がもつ権威を振りかざして、子どもに強制的に従わせるという側面の強い教師」、勢力資源喪失型の教師は「指導や注意が、子どもにしっかり伝えることができない、指導に一貫性がなく指導や注意が場あたりので、子どもに指導を無視されているタイプの教師」ととらえられる。得点は4点満点で計算される。

文献

- 日野克博(1998) 学級経営と体育授業に関する実証的研究. 体育科教育 46 (6): 26-28.
 日野克博・高橋健夫・八代 勉・吉野 聡・藤井喜一(2000) 小学校における子どもの体育授業評価と学級集団意識との関係. 体育学研究 45 (5): 599-610.
 古畑和孝(1983) よりよい学級をめざして: 学級心理学の基本問題. 学芸図書: 東京, pp. 50-57.
 池田延行(2000) 21世紀に向けた学習指導要領と体育科. 杉山重利ほか編集. 新学習指導要領による小学校の体育⑦考え方・進め方. 大修館書店, 東京: 15-25.
 河村茂雄(1996) 教師のPM式指導類型と勢力資源及び児童のスクール・モラルとの関係についての調査研究. カウンセリング研究 29 (3): 187-196.
 河村茂雄(1997) 学級のモラルを診断するチェックリスト. 児童心理 51 (19): 116-124.
 河村茂雄・田上不二夫(1997a) 教師の教育実践に関するビリーフの強迫性と児童のスクール・モラルとの関係. 教育心理学研究 45 (2): 213-219.

- 河村茂雄・田上不二夫 (1997b) 児童のスクール・モラルと担任教師の勢力資源認知との関係についての調査研究. カウンセリング研究 30 (1): 11-17.
- 河村茂雄・田上不二夫 (1997c) 児童が認知する教師の PM 式指導類型と児童のスクール・モラルとの関係についての考察. カウンセリング研究 30 (2): 121-129.
- 河村茂雄 (1998) 崩壊しない学級経営をめざして. 学事出版, 東京, pp. 78-83.
- 木川達爾 (1985) 学校経営の理論と方法. めいけい出版: 東京, pp. 74-78.
- 小谷川元一・稲田真介・波田美穂・古谷慶一郎 (2000) 座談会 学級崩壊と体育. 学校体育 53 (6): 8-16.
- 文部省 (1999) 小学校学習指導要領. 大蔵省印刷局: 東京, pp. 80-89.
- 小川一夫 (1979) 学級経営の心理学. 北大路書房: 京都, まえがき.
- 杉山重利 (2000) 21 世紀に向けた教育課程. 杉山重利ほか編集. 新学習指導要領による小学校の体育 ⑦ 考え方・進め方. 大修館書店, 東京: pp. 1-14.
- 高田俊也・岡沢祥訓・高橋健夫・鐘ヶ江淳一 (1992) 体育授業における新しい授業診断法の作成. 高橋健夫代表 体育授業改善のための基礎的研究 (平成 1・2 年文部省科学研究費報告書): 172-182.
- 高橋健夫 (1999) 学習指導要領にみられる「体ほぐし」の考え方. 体育の科学 49: 471-474.
- 歌川好夫 (1998) 「学級経営と体育」を考える. 体育科教育 46 (6): 29-31.
- 八代 勉 (1998) 学級経営をテーマに据えた授業研究の成果. 体育科教育 46 (6): 23-25.
- 吉崎静夫 (1991) 教師の意思決定と授業研究. ぎょうせい: 東京, pp. 203-223.

The Relationship between the Children's Evaluation of Physical Education Classes and Children's Consciousness toward their Classroom in Elementary School

Junji Hosogoe, Sumitada Sukigara

<Abstract>

The purpose of this study was to examine the relationship between the children's evaluation of PE classes and the children's consciousness toward their classroom. The subjects were 210 elementary school children. They were the 3rd~6th grade.

As a means of analysis we adopted the evaluation scale of PE classes developed by Takada et al, the School Morale Test developed by Kawamura and Tagami, and the teacher's fascination and friendly attitude scale developed by kawamura.

As the results of analysis, on the whole, we have found as follows: (1) Children have positive attitude toward PE classes. (2) They got high score in the SMT. (3) They felt the charm from their classroom teacher. And we have found positive correlation between the evaluation of PE classes and the SMT score.

Also, we described about 4 children: 2 children showed positive attitude to PE classes, another 2 showed negative one. From those description, we have ascertained that they have different situations and problems in their school life.